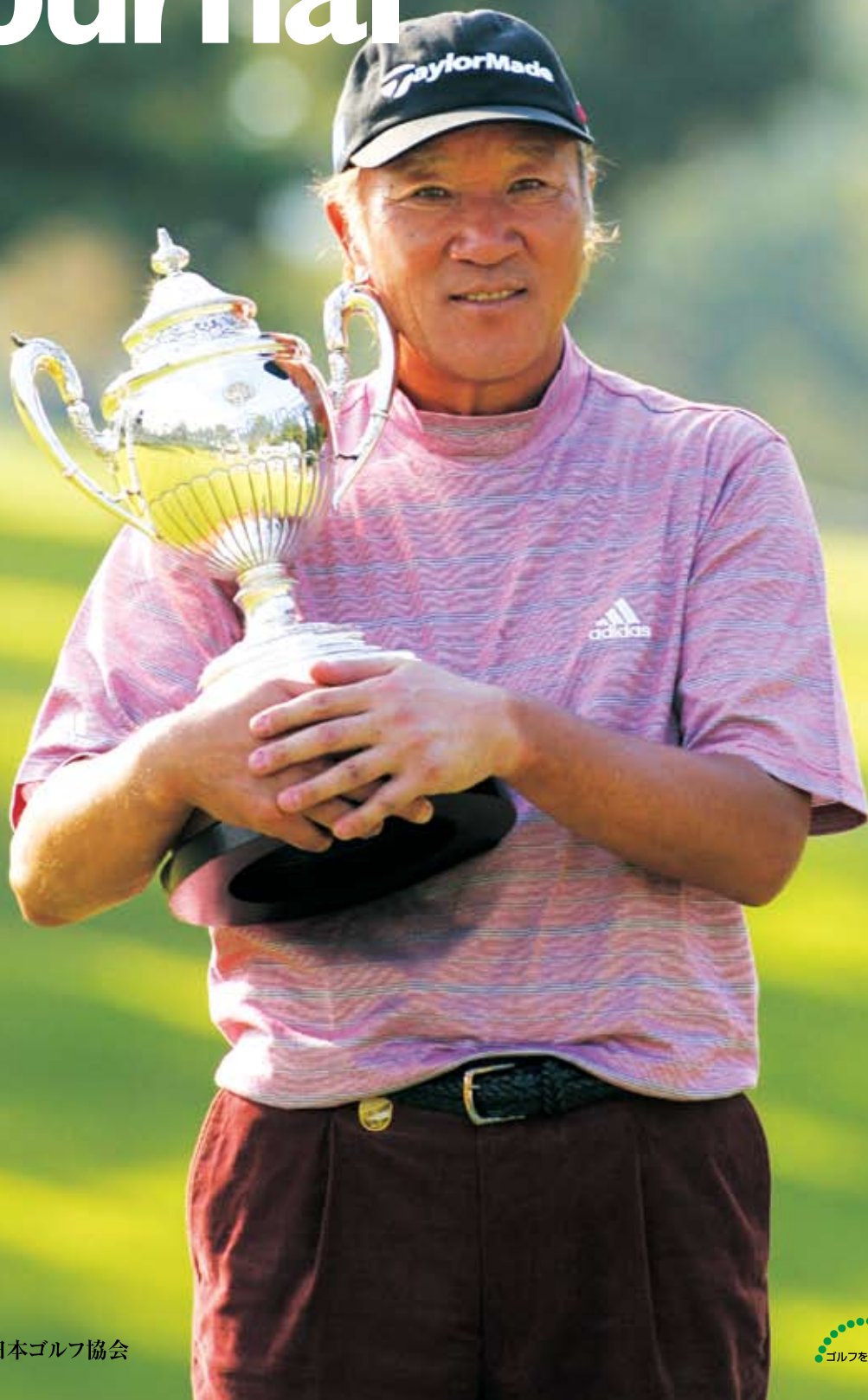


JAPAN GOLF ASSOCIATION

# JGAGolf Journal



# 今こそ積極的な真の国際化が求められる

急速に進む国際連携の時代にあって、日本ゴルフ界の立場とは、そして国際ゴルフ社会での果たすべき役割とは何か。

# 辻 暎一郎氏に聞く

アジア太平洋ゴルフ連盟名誉会長



日本人として初めてAPGC(アジア太平洋ゴルフ連盟)会長に就任し、3期(6年=2001～06年)に渡ってAPGCの世界的な地位向上に貢献した辻暎一郎氏。この間、辻氏は、日本の近隣諸国・地域(APGC)との連携強化をはかり、欧州ゴルフ連盟、そしてR&A、USGAとの太い絆を作り上げた。その辻氏に、日本ゴルフ界が国際社会の中で果たすべき役割、そして今後の展望を伺った。



EGA事務局長のMr. John C. Storjohannと旧交を深める辻氏。2000年に創始されたボナラクトロフィーから始まった2人の友情は、今でも変わらない。

— 2008年の競技日程が発表になり、アジア太平洋ゴルフ連盟(APGC)※1の主催競技が開催されることになりました(アジアパシフィック パナソニックオープン 9月25-28日・大阪府茨木CC)。

辻 APGC名誉会長(以下、辻) 2001年以来、途絶えていましたからねえ。日本で国際大会が行われることは、とても喜ばしいことです。一方で、ゴルフの国際大会が日本で開催されることを当たり前と言う人がいるかも知れないが、それは違う。世界の中の日本、アジアの中の日本と考えたとき、日本はもっと積極的に諸外国との交流を進めなければなりません。

— 辻さんが日本ゴルフ協会(JGA)の国際委員長となった1998年からの10年間は、まさに今のお言葉の通り、日本の地位は大きく向上しましたね。

辻 ゴルフに限らず、日本には日本の常識がある。しかしその中には、日本でしか通じない常識も少なからずあるのです。特にアジアにおいて、日本がその中心的な役割を担ってきた時代もあった。でも今はどうですか？ 諸外国の国力は向上してきた。日本の協会を代表すれば、相手が聞いてくれる時代ではなくなっているのです。それにも関わらず、国際会議の場などで、日本はただ参加するだけで発言しようとしません。これでは、相手にされなくなる。JGAで国際委員長となった10年前、そうした危惧を強く抱きましたね。そもそも“国際力”とか“国際化”ってなんですか？ そんなところから考え始めたものですよ。JGAの国際的地位向上が最重要であり、安西会長以下努力されており、良い方向に進んでいると思います。

— ただ会議に参加する、ゴルフなら試合に出場する。それだけでは不十分ということですね？

辻 単にJGAを代表するだけでなく、人として相手に受け入れられること。「日本人として…」というだけではなく、1人の人間として向き合い理解してもらえば、相手からも立派な人間として認められるわけです。これまでは、良くも悪くも「日本の…」という意識が強すぎる傾向にありましたからね。だから私は、JGAの国際委員長を務めておりましたが、

積極的に1人の人間、一ゴルファーとして各国の要人たちと接してきました。

— ゴルフの国際大会で日本人選手が上位入賞を果たしても、それだけでは国際化とは呼べないわけですね。

辻 競技に関して言えば、もちろん成績は重要です。でもそれと同等に、レフェリーや役員として、どれだけの人材を送り込めるか。国際競技の規則作成、競技運営に携わる者が増えて、初めて国際交流であるとか、国際力がついたと言えるでしょう。だから、国際化を叫ぶなら、選手と同時にそうした人材も育てなければいけないのです。これは、時間がかかる大変な仕事です。

— その結果、2001年にはAPGC会長に就任された。

辻 その過程でも、様々なことが起きました。その時に中心的な役割を果たしていたのはマレーシア。そして豪州と日本がサポートする形でした。もっともマレーシアにトーマス・リーさんと言う、人望も実行力もある方がいたわけですが。そのリーさんを中心に、新しいAPGCの憲章を作ろうという動きになったのです。これには、私も積極的に参加しました。それで、それまで名誉職然としていた会長職に加え議長に、もっと実権を集めよう。そして、会長・議長以下、理事たちで積極的にアジア太平洋地域のゴルフ振興を図ろうということになったのです。

— 世界のゴルフ界にとって、新しいAPGCはどのような認識を持たれているのでしょうか？

辻 APGCを強固なものにして世界のゴルフ界にアピールする必要があります。APGCは、ノムラカップ※2を主催してきました。アジア太平洋地域の団体として、R&A、USGA、IGF(国際ゴルフ連盟)等での認識度も高まっています。

— APGCが主催しているノムラカップについて、ご説明ください。

辻 ノムラカップは、野村駿吉氏※3のご尽力の末に実現した大会です。野村氏は、太平洋戦争前から戦後、日本ゴルフ界の発展に寄与され、JGA副会長として国際交流に努められ、アジアのゴルフ振興に大きな功績を残しました。2007年に台湾で23回大会を開催したノムラカップは、伝統と歴史があります。





2001年までAPGC会長を務めたMr. Tu Mingdeと同会長就任直後の社氏。(2001年ノムラカップ中国大会表彰式にて)

そのような大会に日本人の名前が冠せられているのは、ノムラカップが唯一です。私どもがこの大会を大切に守って、今後も引き継がなければなりません。忘れてはならないことは、ノムラカップの開催を契機に、APGCが発足したということです。1962年に川奈で世界アマが開催された際にフィリピン、台湾、日本の3つの国と地域で対抗戦を行わないかという話が出て、ノムラカップとAPGCの母体が発足したのです。

— APGCは、2002年からノムラカップの他にも、アマチュアのアジア太平洋選抜—ヨーロッパ選抜マッチ選手権(ボナラクトロフィー※4)を開催しています。これは、英国対米国のアマチュア対抗戦「ウォーカーカップ」と同じ形で、地域同士の対抗戦として、大変意義深いものだと思います。

辻 世界のゴルフ団体といえば、R&A(英国)とUSGA(米国)。いずれも一国のゴルフ団体です。でも、APGCは、地域のゴルフ団体です。これに比するものといえば、欧州ゴルフ連盟(EGA)くらいでしょう。ですから、こちらの体勢が整ったことで、欧州側はすぐさま反応してくれた。しかも、この大会では

R&Aからのサポートも受けることが出来ました。

— そのボナラクトロフィーの第3回大会の開催国は日本でした。

辻 そこで当たり前のような顔をして運営を成功させる。これで対外諸国からの信頼を少しずつ得ることが出来るのです。そのボナラクトロフィーですが、アジア太平洋選抜の出場選手12名には、全英アマの出場権も与えられるようになりました。

— 素晴らしいことですね。日本でアマチュアとして成績を残して、ナショナルチームメンバーになれば、その先に日本の代表としてボナラクトロフィー、全英アマ、全英オープンとつながっていく。

辻 そういうことです。全英オープンまでの可能性が出てきた。それだけボナラクトロフィーという競技、そしてAPGCが、R&Aに認められてきたということだと思います。

— 2005年からは、全米オープン最終予選も日本で開催されています。

辻 JGAにとって、大変意義深いことです。米国以外での初めての開催地に日本が選定されたわけですからね。これは胸を張っていい結果だと思います。

ます。これを実現するまでの関係者の努力は大変なものでした。

— 辻さんが会長に就かれている間に、APGCはR&AからもUSGAからも認められる団体へと成長してきたと言えるようですね。

辻 R&AもUSGA、IGFも、EGAとAPGCは地域のゴルフ団体だから大事にしなければと思っていただいています。だから、そうした期待にも応えないといけない。ボナラクトロフィーの実現は表面に現れたものですが、水面下での多くの動き、調整があって、初めて一つの事業が興るわけですよ。

— なるほど。「APGCオープン」にしても、簡単ではないようですね。

辻 一度無くなったものを再び興すとなれば、新規に始めるよりも調整が重要となる。でも、APGCが管轄するアジア太平洋地域での競技は、是非とも必要なものだった。だからこそ、成功、定着させなければならない。つまり「継続」と「発展」というわけだ。これは、APGCそのものにも言えることだが。

— 一口にアジア太平洋といっても、それを一つにまとめることは容易ではないと思いますが。

辻 1962年のAPGC発足当時は、日本とフィリピン、台湾で構成されていましたが、現在では東はグアム島から西はイランまで29の国と地域がAPGCに加盟しています。29番目の加盟はモンゴルでした。ネパールには、ゴルフコースが1つしかないが数年前に加盟しています。ゴルフ後進国といえる、これら新しい団体を日本は先輩として助けなければいけない。日本だってほんの100年前ですよ、ゴルフが始まったのは。それに、各地で人種も宗教も違えば、風俗習慣も違う。それぞれの違いを知り、そして尊重し合わなければ、とても国際協力は出来ません。一つにまとまるかどうかは結果論ですが、それまでの過程としては、やらなきゃいけないことが山積みなのです。

— やはり、そこで日本がリーダーシップを取らないと…

辻 APGCの目的は、JGAの目的が「日本でのゴルフの普及」にあるように、「アジア太平洋地域でのゴルフの普及」です。そのために今、何が必要で、

何をすべきか。それだけなのです。だからね、ここでも「日本だから…」とか「リーダーシップを…」なんて不必要なのです。必要なのは、リレーションシップ。お互いを尊重し、強固な信頼関係を構築することで、相手に自分のことをわかってもらうことです。その意味から、私はAPGCの会長になったことよりも、2度会長に再選され、6年間その職を務められたことを嬉しく思っています。

— APGC圏域でのゴルフ人口の増加。これは何にも増して重要なことですね。

辻 ゴルファー人口が増えない限り、ゴルフの発展はありませんからね。まずはゴルフに興味を持つ人を増やす。そしてプレーヤーを増やしていく。プロやアマチュアのトップ競技の開催は、その地域でゴルフに興味を持つ人を増やすと同時に、ゴルファーの大きな目標となればいい。本当はね、例えばこれからゴルフを盛んにしたいところへ、余裕のあるところから資金と指導者を送り込めばいい。これが一番手っ取り早いゴルフ振興ですよ。ところが、そうした事は、一朝一夕には実現しない。

— しかし、ゴルフはアジア大会の競技にもなっています。APGC圏域のゴルフ振興は着実に進んでいると思いますし、将来はオリンピックの種目にもという期待があることを感じています。

辻 現在のアジア大会ゴルフ競技の運営は、APGCが行っていますし、アジア大会をきっかけにオリンピック種目にと願う声が多いこともわかります。ゴルフがオリンピック種目になれば、国家から助成金が出る可能性も高いからね。しかし、オリンピックの種目になるかどうかは、わからない。北京で実現しなかったこともあり、難しいと思う。先ほどお話ししたとおり、ゴルフ振興には経費がかかる。現状、限られた資金の中で、いかに有効な活動を継続するか。APGCの理事には、その手腕が求められるわけです。引き続き、次の世代で解決してもらわなければいけない懸案も実に多いですが、あとに続く皆さまに努力を重ねて頂きたい。

— 辻さんのご退任の後、APGC会長には韓国のカン・スー・ハー氏が就任されました。辻さんは名誉





2002年に廣野ゴルフ倶楽部で開催されたボナラクトロフィー。

30年ぶりに日本開催（成田ゴルフ倶楽部）となった2005年のノムラカップ。日本代表選手団とトーマス・リーAPGC議長と辻氏。



会長、前出のトーマス・リー氏（マレーシア）が議長で、理事として村津敬介氏が選任されましたね。

辻 先輩が残してくれた良いものを次世代に引き継ぎたい。これは人間の務めの一つでしょう。そういうつもりで会長を引き受けてきたのですが、階段を1段ずつ登った結果、良い方向に向かっていると思います。しかし、ジュニアと女子部門の問題が残っている。

— APGCとして、今までジュニアや女子の大会はありませんでしたか？

辻 APGCは男子の団体であり、女子部門はありません。ジュニアに関しては、フィリピンを中心に8つの国と地域で「APGCジュニア協会」を形成していますが、APGCは名前だけで、正式には無関係なのです。ただ、その中心であるフィリピンがジュニアの更なる発展をと言うことでAPGCにジュニア競技をお渡しすると言っています。だから、早ければ2008年にもAPGCジュニア選手権を発足させられそうです。

— 女子競技は、クィーンシリキットが…

辻 あの競技はゴルフが大好きなタイの女王様の名を冠した大会で、タイ女子協会が主催しています。しかし、APGC圏域内の女子の問題は、ジュニアより難しいかも知れない。

— 日本では、JGAの女子競技運営部会があり、そこで日本女子オープン以下、各種大会の運営を行っていますよね？

辻 各地のゴルフ協会を見ると、歴史的に、最初から女子が入っていないケースも多い。APGC内で男女別の協会は4つあります。こればかりは、歴史と文化の違いですからね。なかなか足並みが揃わないのです。そこで、まずジュニア競技から男女一緒に開催し、それで徐々にAPGC圏域内の女子の問題も解決の糸口になれば、とは、思うのですが。

— ここでも、日本の常識が通じないことが伺えますね。

辻 確かに。男女別々の協会というのは、私どもには実感がありませんし、想像も出来ません。けれど、R&Aからしてそうだから、旧英国領だった地域では、その傾向が根強いようですね。でもね、それまで道

辻 嘆一郎（つじ せい いちろう）

1929(昭和4)年生。昭和60年から平成6年まで当協会国際委員。平成10年に国際委員会委員長に就任するとともに平成17年からは当協会理事を務め、平成19年から顧問に就任。平成13年から平成18年までアジア太平洋ゴルフ連盟(APGC)会長に就き平成19年には同連盟名誉会長に就任。日本ゴルフ界の国際親善のみならずアジア太平洋地域のゴルフ振興に尽力している。



※1 アジア太平洋ゴルフ連盟 (APGC) 1963年に発足。現在29の国と地域が加盟しており、JGA顧問の辻嘆一郎氏が名誉会長を務めています。

APGC加盟国一覧

オーストラリア	バーレーン	バングラディッシュ	ブータン
中国	フィジー	グアム	香港
インド	インドネシア	イラン	日本
韓国	マカオ	モンゴル	マレーシア
ネパール	ニュージーランド	パキスタン	パプアニューギニア
フィリピン	カタール	台湾	サモア
シンガポール	スリランカ	タイ	アラブ首長国連邦
ミャンマー			

※2 ノムラカップ アジア太平洋アマチュアゴルフチーム選手権 アジア太平洋ゴルフ連盟 (APGC) が主催する、現在アジア太平洋地区で開催される公式戦の中では最も規模の大きいアマチュアチーム選手権。同地区のゴルフ界の発展に寄与することを目的に隔年で開催されています。本選手権の発足は、1962年に川奈GCで行われた世界アマチュアゴルフチーム選手権の際にフィリピンのマヌエル ディンド ゴンザレス氏から日本・台湾・フィリピンの3カ国の間に対抗戦を行うのはどうかとの提案があったのにさかのぼります。その提案を受けた当時のJGA副会長野村駿吉氏と台湾の代表者と協議した結果、1963年にフィリピンで日本、台湾、フィリピンが参加して第1回アジアアマチュアゴルフチーム選手権を開催しました。[ノムラカップ]の由来は、野村駿吉氏が果たしたアジアアマチュアゴルフ界への貢献の偉業を称えてつけられたもので、第1回大会では日本が優勝を果たしています。1977年には、オーストラリア、ニュージーランド、パプアニューギニアがAPGCに加盟したことを受け、競技名称を現在の「アジア太平洋アマチュアゴルフチーム選手権」に変更し、現在に至っています。なお、日本は過去8度の優勝を数えています。

※3 野村駿吉 明治22(1889)年生まれ。父親の電太郎氏は、日本の鉄道事業における先駆者といわれた人物。駿吉氏は、明治44(1911)年に神戸商高を卒業後、大正2(1913)年に三井物産ニューヨーク支店に勤務。このころ、ゴルフを覚え、大正11(1922)年からはテキサス州で石油採掘に従事し、翌年に日本に帰国。帰国後は東京ゴルフ倶楽部の会員となり研鑽を積み、昭和2(1927)年に日本アマチュアゴルフ選手権競技に優勝しました。昭和10(1935)年には、関東ゴルフ連盟の設立を果たし、関東アマを創設するなど、戦前の日本のゴルフ発展に寄与しました。戦後は、昭和23(1948)年に東京ゴルフ倶楽部理事長に就任すると、翌年には関東ゴルフ連盟を再建、JGAの復活にも尽力。昭和32(1957)年には露ヶ関カンツリー倶楽部でのカナダカップ開催に尽力するなど日本のゴルフブームの礎を築きました。昭和38(1963)年、73歳で死去。

※4 ボナラクトロフィー アジア太平洋選抜-ヨーロッパ選抜マッチ選手権 本大会は、アジア太平洋地区とヨーロッパ地区の友好をゴルフを通じて深めることを目的に1998年から隔年開催されています。いわば、アジア版ウォーカーカップ(米国対英国対抗戦)といえる大会です。出場選手はAPGC、EGAに加盟する国と地域から最大2名が選抜されるほか、キャプテン推薦を含む12名でチームを編成します。ボナラックカップの由来は、1983年から1999年までR&Aのセクレタリー、1999年、2000年にはR&Aのキャプテンを務めたサー・マイケル・ボナラック氏の功績を称えてつけられたもので、本大会は、ゴルフの普及・発展に尽力しているR&Aのバックアップのもとで開催されています。

がなかったら、そこに道筋を作ればいい。ジュニア競技も女子競技も、そう思っています。

— これから世界を舞台に活躍することを目指している選手たちに掛ける言葉は？

辻 常々「一人歩きできる選手になれよ」とは言っています。一人歩きとは、もちろん諸外国地域での大会のことです。そこで、たとえ1人でも臆せずにプレーできるゴルファーとなって欲しい。そのためには、最低限のコミュニケーションが取れることが必要です。もちろん選手を派遣するからには、現地での滞在時はもとより移動も含めた全ての面で安全を期することが一番大切なことです。

— 安全ですか？

辻 これは選手個人の心構えに加え、送り出す組織としても危機・安全管理が重要だということです。99年のノムラカップがパキスタンで行われたのですが、その時、クーデターが起こり、我々は48時間ホテルに缶詰にされました。その時の教訓でもありますね。

— 「スポーツと政治は無関係」とか、「ゴルフは安全」と言っても、それでは済まされないこともありますからね。

辻 あの時はいざ空港閉鎖で、本当に何も出来なかった。でも、こうした危機はパキスタンに限りません。今や、全世界のどこが危険にさらされるか、見当もつきません。だからこそ、事前の調査などにベストを尽くして、日頃から危機・安全管理の意識を持つことが重要なのです。国際社会とか国際化、国際力が重要なら、それと並行した危機・安全管理もまた、重要項目になってくるのです。

— 確かにその通りですね。理想論ばかりの絵空事では実行力に欠けます。今後、日本が諸外国にとけ込み、真の国際化を遂げるためにも、まずはゴルフから。そう思いました。改めて、この10年を振り返って…

辻 正直に言って、私なりの努力の結果、及第点を自負しております。次の方々に引き続き尽力を続けて頂きたいと思います。

— 本日はありがとうございました。



## 「第1回 全国小学生ゴルフ大会」開催

07年11月25日、茨城ゴルフ倶楽部(茨城県)で、日本ゴルフ協会主催による初めての小学生ゴルフ大会が開催された。日本ゴルフ協会(JGA)の富田浩安ジュニア育成委員長に、今大会の趣旨、そして今後のジュニアゴルフへの展望を語ってもらった。



日本ゴルフ協会理事  
ジュニア育成委員会委員長  
**富田 浩安**

1998年～2001年まで競技委員会競技委員、03年からはハンディキャップ委員会副委員長を務め、06年よりジュニア育成委員会副委員長、07年には、ジュニア育成委員会委員長、理事に就任し、当協会のジュニア育成事業の推進にあたる。



第1回大会上位入賞を果たした子供たち。

— 今回、初めての全国小学生ゴルフ大会の開催となりましたが、きっかけはどこにあったのでしょうか？

**富田** JGAでは小学生から高校生までをジュニアとしています。高校生や大学生のゴルファー数が横ばいなのに、小学生ゴルファーは著しい増加傾向を示しています。バブル崩壊から10数年経ち、この5～6年は日本の経済状況が、回復しつつあること、特に女子10代プロゴルファーの台頭などにより、子供にゴルフをさせてみよう、と思う親御さんが増えているからと分析されます。そうした小学生ゴルファーの腕試しの場として、JGAでも正式な大会を準備した、ということです。

— 小学生ゴルファーに“競う楽しみ”を味わってもらおうということですか？

**富田** ゴルフをせっかく始めたにもかかわらず、力を試す場がなければ、モチベーションが続かずやめてしまう子もいるということで、全国レベルの大会を実施しようとなりました。今までにも何度かその動きはあったのですが、参加人口の増加と、全国8地区のゴルフ連盟でそれぞれ小学生大会を開催していることから、今年、初めて全国大会を開催することになったのです。この大会は、各地区連盟の大会でいい成績を残した小学生たちに、次なる目標を与え、「全国ではどれぐらいのレベルなんだらう」ということを知ってもらう、いわば“ごほうび”的な大会です。大切なのは成績の優劣

ではありません。

— では、この大会の意義はどこでしょうか？

**富田** ゴルフというスポーツは審判がおりませんから、自分の責任でルールを守らなければなりません。ただ、小学生ですから自分で責任を取ることというよりも、エチケット、マナー、フェアプレー精神を学んでほしい。小学生のうちからゴルフでもっとも重要なこれらの素養を身につけてもらい、技術レベルだけでなく人格においても優れたスポーツマンになってもらえれば、ということです。そしてゴルフを通じて素晴らしい仲間を増やしてほしいと思います。

— JGAが行っているジュニア事業の現状についてお聞かせください。

**富田** まず、一番大きなものはJGAジュニア会員制度が挙げられます。この制度は、6歳以上18歳未満のジュニアゴルファーを対象にした登録制度です。会員数は1万人を超えました。会員は、ネームタグ、会員証、バッジ、ゴルフ規則書、ジュニアニュース、ゴルファー保険が附与され、各地区ゴルフ連盟主催のジュニアスクールとジュニアゴルフ選手権競技に出場できます。

— 今後、ジュニア事業を充実させるために必要なことは何でしょうか？

**富田** たとえば、野球は各小学校にグローブとバットとボールがあって、休み時間や放課後に皆が手軽に楽しめる。このような環境から、今、世界で活躍する



写真提供:KGA



写真提供:KGA



写真提供:KGA

小学生大会は、子供たちがエチケット、マナー、ルールを学ぶ実践の場でもある。(左から、ラウンド中の目土袋の携帯、バンカー均し、そして使用球の確認)

選手たちが出てきています。野球までとはいわずとも、少しでもゴルフに興味を持った子供たちに、まず体験してもらえ土壌づくりが必要です。

— 子供たちが気軽にゴルフできる環境ですね。

**富田** はい。ジュニアゴルファーのために、従来のゴルフ環境の改善が急務となります。現在、全国で80カ所のゴルフ場と110カ所の練習場に協力をいただいておりますが、さらに協力してくれるゴルフ場、練習場を充実させるべく努力しています。ゴルフ場、練習場については、できるだけ安い価格で提供してもらえ、もちろんですが、子どもたちは学業が第一ですから、営業上難しいとは思いますが、土日祝日や放課後の受け入れをお願いしなければなりません。

— こうした活動はJGAが直接全国のゴルフ倶楽部にお願しているのですか？

**富田** 何より地域との密着が必要になりますから、ジュニアゴルファーの為のゴルフ環境改善につきましては、各地区連盟に担当してもらっています。各地区連盟が地域のクラブとのつながりを密接にし、それぞれジュニアスクールやジュニア大会を開催する。そこから強い選手を見つけて強化を担当するのがJGA。できるだけ若いうちから海外の試合を経験してもらえ、機会を作るのも、われわれの仕事だと思えます。また、各地区連盟間の情報交換の場としての役割を果たしていければと思います。

— 子供にゴルフをさせたい、という保護者も増えていると思うのですが、子供たちに対する心構えがあればお教えください。

**富田** ご両親がお子さんに夢を託す、「プロゴルファーにする」ためにお子さんにゴルフを始めさせるケースも確かにあるでしょう。しかし日本には「文武両道」という言葉があります。子供たちにはプロゴルファーの前に、バランスのとれた社会人になってほしい。「ゴルフが強ければいい」と

いうのではなく、学業をしっかりとやって、人間形成もしっかりされた上で、強いゴルファーになってくれればいいと思うのです。

— 「将来にプロありき」のジュニアゴルフではなく、あくまで人間形成が第一。そのためのゴルフであってほしいということですね。

**富田** ゴルフは一生できるスポーツですし、プロになってからの選手生命も長い。あまり結果を早く出そうとする必要はないはず。肉体の成長の妨げになるほどの練習量を強いるのではなく、肉体と精神がともに成長するように、目先の結果だけにとらわれずに、ゆっくり見守っていただきたいものです。

— ゴルフは個人競技ですが、ジュニアの段階から個人競技に精通する意義は？

**富田** ゴルフには、個人競技ならではの「責任感が養われる」という長所があります。でも他のチームスポーツにはチームワークによって協調性が豊かになるという利点があります。学業とともに、他のスポーツも体験する。そのうえで、その子がゴルフに興味を持ってくれるのが一番ですね。また、お子さんがゴルフをする、一番の長所は、親子の対話ができることではないでしょうか。親子では30年前後の年の開きがあり、感覚の違いはどうしても出てしまいます。しかし、ゴルフというスポーツを通して共通の話題も持てるだけでなく、1日に6～7時間もの間、親子が会話を持つことは、できるゴルフには、子育てに必要な要素がたくさんあると、私も父とゴルフをしてきましたので感じますね。

— 今日の第1回小学生ゴルフ大会で、ガンバル小学生ゴルファーを間近にしての感想は？

**富田** 今、一番盛り上がっているのがジュニア、特に小学生だと思えます。きれいなスイングをしている子たちもたくさんいますので、彼らがどのようなゴルファーに育っていくのか楽しみです。

※「第1回 全国小学生ゴルフ大会」の結果はJGAホームページをご覧ください。  
<http://www.jga.or.jp/jga/jsp/2007/15-0/top.html>



## 霞ヶ関カンツリー倶楽部を“緑の甲子園”に

日本ジュニアゴルフ選手権が初めて霞ヶ関カンツリー倶楽部(埼玉県川越市)で開催されたのは1971年のことだった。また、1982年以来、全大会を霞ヶ関で開催している。今や、高校球児が甲子園に憧れるように、霞ヶ関はジュニアゴルファーの象徴となっているのだ。

### 本年度大会から、川越市がジュニアゴルフの“拠点”に。

本年度大会から正式に、大会会場の霞ヶ関CCの所在地である「川越市」が、その大会運営に協力するようになりました。

大会要項には「主管：川越市スポーツ拠点づくり実行委員会」とあります。そして文部科学省、全国高等学校ゴルフ連盟、スポーツニッポン新聞社と並んで「(財)地域活性化センター」が大会後援に名称を連ねています。

「川越市として、このジュニアゴルファー日本一を決めるこの大会に、何とか協力できないものかと考えてきました。その結果07年度から、ジュニアゴルフの拠点として、川越市がスポーツ拠点づくり推進事業に承認されたのです。これで市としても、積極的に日本ジュニアに協力することができるようになりました」(川越市市民スポーツ課 牛窪太亮氏)

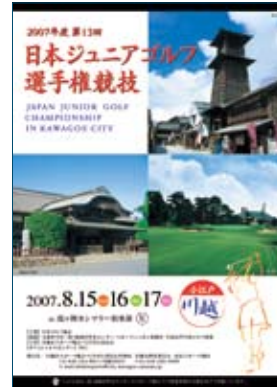
財団法人地域活性化センターは、「活力あふれ個性豊かな地域社会を実現するため、まちづくり、地域産業おこし等、地域社会の活性化のための諸活動を支援し、地域振興の推進に寄与する」(同法人ホームページより)ことを目的とした法人です。そしてその活動の一環として、ジュニアスポーツを対象に、全国で「スポーツ拠点づくり」の推進事業が行われています。

### “霞ヶ関”が、全国のジュニアゴルファーの聖地となる。

当初、初年度である07年大会では「様子を見ながら今後の方策を検討する」予定だったのですが、折りしも5月に高校1年の石川遼選手(杉並学院)が史上最年少でプロツアートーナメントに優勝。埼玉県在住の地元選手ということもあり、川越市としても一気に盛り上がったようです。

「川越市では、大会ポスターの制作と配布、市内の2ヶ所の選手宿泊ホテルからの送迎、ギャラリー

2007年度大会ポスター。



用の休憩 TENT、川越市の物産展などを担当しました。また選手に対して『川越の水』を用意し、最終日にはギャラリーの皆さんにも無料配布を行って、大勢のギャラリーの皆さんにご利用いただきました」

炎天下のトーナメント観戦だけに、休憩 TENT と飲料水の無料配布は、ギャラリーの皆さんにも大好評でした。

「今後も川越市として日本ジュニアゴルフ選手権を応援しながら、より一層“ジュニアゴルファーの祭典”としての意義を深めるお手伝いができればと思います。そして日本ジュニアの発展とともに、その拠点として川越市をアピールしていければ幸いです」(牛窪氏)

このように、川越市は日本ジュニア選手権と二人三脚でジュニアゴルフの発展に寄与していく。その第一歩が、07年度に記されたのです。



大会期間中に出品した川越市の物産展。

## ● その他の海外派遣(個人派遣)

### 第21回 TAEYOUNG CUP 韓国女子オープンゴルフ選手権

●開催日/2007年5月18日(金)~20日(日) ●開催地/韓国  
●コース/The Honors Country Club ●選手/若林舞衣子(ヨネックス)

順位	選手名	1R	2R	3R	TOTAL
45T	若林舞衣子	79	70	78	227

### 第112回 全英アマチュアゴルフ選手権

●開催日/2007年6月18日(月)~20日(水) ●開催地/英国  
●コース/The Royal Lytham & St Annes / St Annes Old Links  
●選手/伊藤 勇氣(日本大学2年)

順位	選手名	1R	2R	3R	TOTAL
231T	伊藤 勇氣	76	75	CUT	151

### 第107回 全米女子アマチュアゴルフ選手権

●開催日/2007年8月6日(月)~12日(日) ●開催地/米国・インディアナ州  
●コース/Crooked Stick Golf Club ●選手/森田理香子(京都学園高校2年)

選手名	クオリファイイングR順位	マッチプレー順位
森田理香子	6T	ベスト32

### 第2回 ミッションヒルズ アジア太平洋オープンアマチュアゴルフ選手権

●開催日/2007年12月4日(火)~7日(金) ●開催地/中国・深圳  
●コース/ミッションヒルズゴルフクラブ ワールドカップコース  
●選手/伊藤 勇氣(日本大学2年)、宇佐美祐樹(日本大学1年)

順位	選手名	1R	2R	3R	4R	TOTAL
2T	宇佐美祐樹	73	74	73	66	286
9T	伊藤 勇氣	71	75	76	73	295

## ● 新井規矩雄プロからの寄付金について

新井規矩雄プロから、同氏が主催するチャリティコンペの収益金の一部500,000円を当協会に御寄付いただきました。12月19日、当協会において、塩田理事・事務局長より新井氏に感謝状を贈呈いたしました。寄付金は、当協会ジュニア育成事業に活用させていただきます。



## ● 「NHK歳末たすけあい・海外たすけあい」に義援金を寄附

当協会は、「NHK歳末たすけあい・海外たすけあい」に総額220万円の義援金を寄附致しました。義援金は、主催オープンゴルフ選手権競技でのプロアマ大会に出場したアマチュアや、出場プロの皆さまギャラリーの皆さまからの寄付によるもので、12月18日(火)に安西孝之会長が渋谷のNHK放送センターを訪れ、橋本元一NHK会長にお渡し致しました。皆さまのご協力に感謝申し上げます。



## ● 訃報

当協会評議員を務められた山田實(やまだみのる)氏が9月11日にご逝去されました(享年80歳)。山田氏は、平成11年から当協会評議委員を務められました。当協会ゴルフ規則委員を務められた平井和之(ひらい かずゆき)氏が11月16日にご逝去されました(享年70歳)。平井氏は、平成17年から当協会ゴルフ規則委員を務められました。山田氏、平井氏、御両名のゴルフ界におけるご功績に深く感謝し、ご冥福をお祈り致します。